

2011年3月期(第39期) 決算説明会

2011年5月18日(水)

ローランド株式会社

本日はお忙しい中、弊社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

日ごろは、弊社にご注目いただき、誠にありがとうございます。

この度の東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

当社グループでは、幸い人的および物的な直接の被害はありませんでした。

2011年3月期の業績については、海外は12月決算のため影響はなく、国内においても影響は限定的でした。

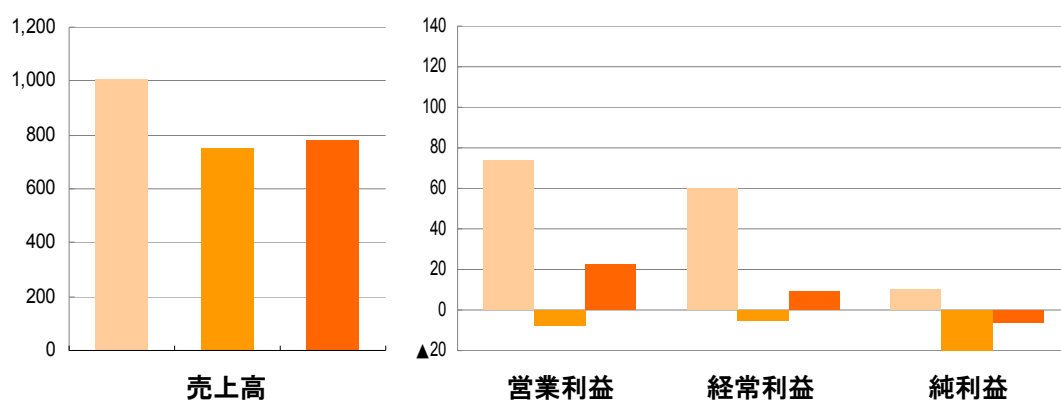
2011年3月期 連結決算および事業別概況

それでは、2011年3月期の連結決算および事業別概況について、ご説明いたします。

連結業績《2011年3月期》



(金額単位:億円) '09年3月期 '10年3月期 '11年3月期



(金額単位:億円)

	'09年3月期	'10年3月期	'11年3月期	増減	増減率
売上高	1,005	750	782	+32	+4%
営業利益	74	▲8	22	+30	-
経常利益	60	▲5	9	+14	-
純利益	10	▲20	▲6	+13	-

売上高は、前期比4%アップの782億円、

営業利益は前期8億円の赤字に対して30億円増益の22億円、

経常利益は、円高による為替差損を10億円計上しましたが、前期5億円の赤字に対して14億円増益の9億円と、営業利益、経常利益ともに黒字転換いたしました。

一方、最終ネットは法人税や少数株主持分の影響もあり、6億円の赤字となりました。前期20億円の赤字に対して、赤字幅は縮小したものの、大変遺憾ながら2期連続の純損失となりました。

電子楽器事業



ローランド株式会社



コンピュータ周辺機器事業



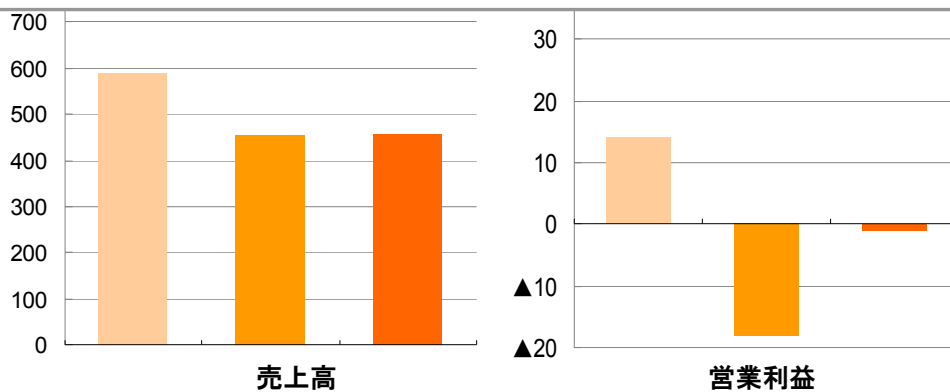
ローランド ディー.ジー.株式会社



事業別に売上高および営業利益について、ご説明させていただきます。

ローランドの連結決算は電子楽器事業と、ローランドDGが展開する業務用大型カラープリンターを中心としたコンピュータ周辺機器事業のふたつの事業で構成されています。

**ギター関連楽器、業務用音響・映像機器が堅調
家庭用電子楽器が前期比12%アップ**



(金額単位:億円)

	'09年3月期	'10年3月期	'11年3月期	増減	増減率
売上高	588	454	458	+3	+1%
営業利益	14	▲18	▲1	+17	-

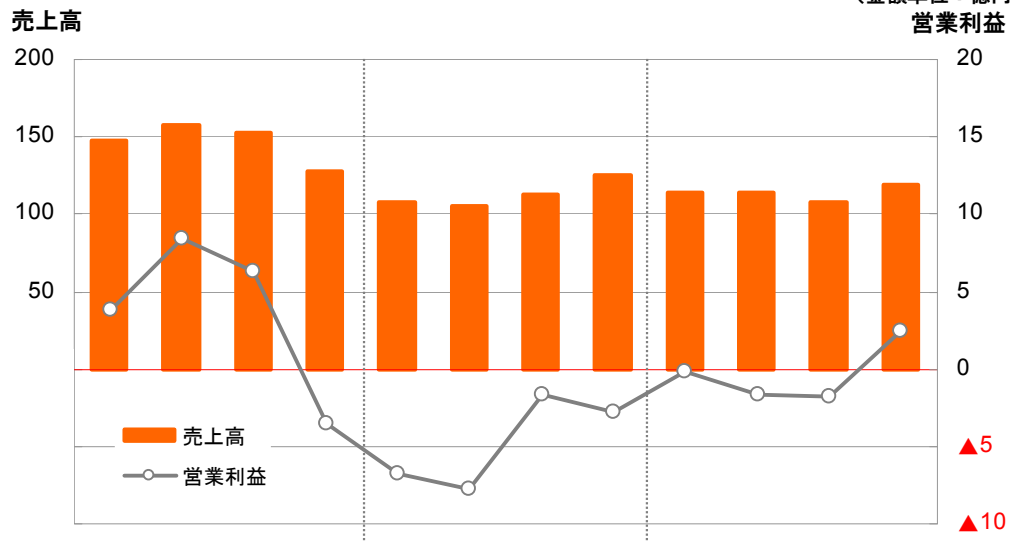
電子楽器事業の売上高は、前期からほぼ横ばいの458億円となりました。

ギター関連楽器、業務用音響・映像機器などが堅調に推移し、加えて家庭用電子楽器が前期比12%アップとなりました。

<電子楽器事業> 四半期実績推移



(金額単位：億円)
営業利益



	2009年3月期				2010年3月期				2011年3月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	148	158	153	128	108	106	113	125	114	114	108	119
営業利益	3.8	8.4	6.3	-3.5	-6.8	-7.7	-1.7	-2.8	-0.2	-1.6	-1.8	2.4

利益面では生産量増加にともなう原価率の改善などにより、第4四半期において黒字転換いたしました。

しかし急速な円高の影響により、通期では1億円の営業損失となりました。

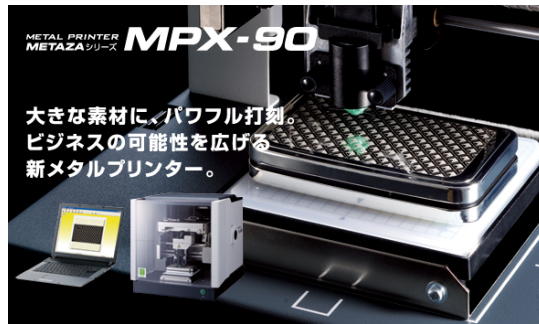
VersaCAMM
VS-540 / VS-420 / VS-300



LEC-330



LEC-300A

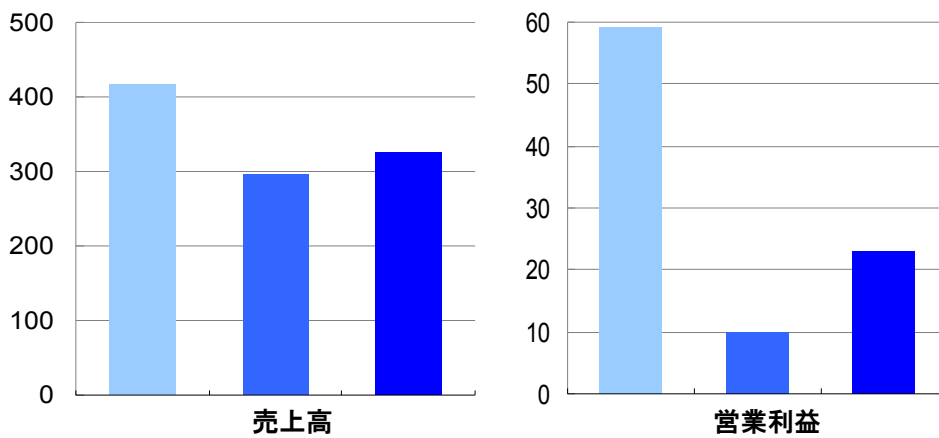


コンピューター周辺機器事業は、業務用大型カラープリンターのラインナップ拡充と3次元入出力装置による積極的な市場開拓に努めました。

コンピュータ周辺機器事業《2011年3月期》



(金額単位:億円) '09年3月期 '10年3月期 '11年3月期



(金額単位:億円)

	'09年3月期	'10年3月期	'11年3月期	増減	増減率
売上高	416	295	324	+29	+10%
営業利益	59	10	23	+13	+127%

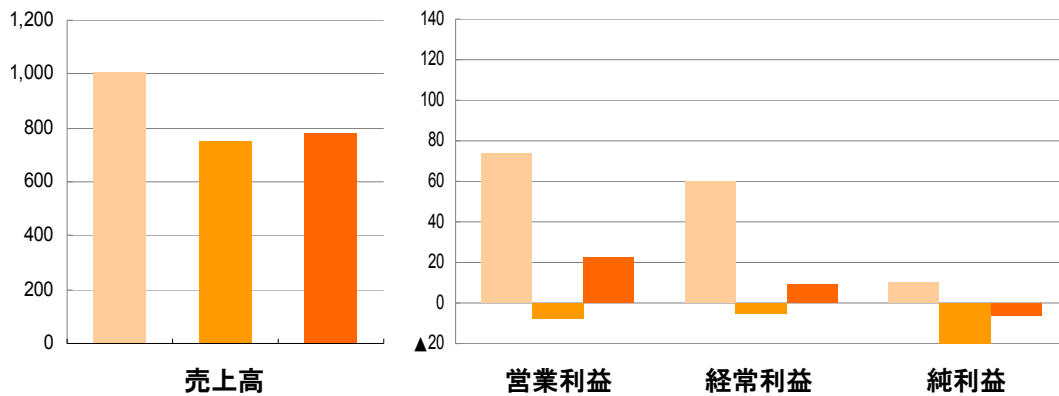
その結果、売上高は前期比**10%アップ**の**324億円**、

営業利益は、生産量増加にともなう原価率改善により**127%アップ**の**23億円**となりました。

連結業績《2011年3月期》



(金額単位:億円) '09年3月期 '10年3月期 '11年3月期



(金額単位:億円)

	'09年3月期	'10年3月期	'11年3月期	増減	増減率
売上高	1,005	750	782	+32	+4%
営業利益	74	▲8	22	+30	-
経常利益	60	▲5	9	+14	-
純利益	10	▲20	▲6	+13	-

以上のように、当期のグループ連結業績は、最終ネットはマイナスとなりましたが、全体としては回復傾向にありました。

しかしながらそのような状況の中、東日本大震災が発生いたしました。



マグニチュード9.0という未曾有の大地震は、その後の大津波と原子力発電所の事故をもたらし、いずれも想定外の規模の災害となりました。

そして様々な産業のサプライチェーンにも大きな影響を与えました。

特に、今回の被災地には多くの電子部品、材料の生産拠点が集約されており、弊社も少なからず影響を受けております。

- 約9割の部品については対策済
- 半導体など一部の部品は調達が不明確
- 2012年3月期の業績予想は未定
(予想可能になった時点で速やかに開示予定)

現在までの調査、対応の結果、既に影響のあった部品のうち、約9割は出荷再開、あるいは在庫や代替品で対応の見込みがたっているものの、半導体など、いまだ安定調達に向けた計画が明確でないものもございます。

よって、2012年3月期の業績予想については、現時点では未定とさせていただき、予想が可能となった時点で速やかに開示させていただきます。

経営方針 (電子楽器事業)

次に、電子楽器事業の中期的な経営方針についてご説明させていただきます。

Better Life with Music

暮らしの中にもっと音楽を。
ローランドは、楽器を演奏する楽しみ、より多くの喜びをご提案しています。

リーマンショック以降、弊社を取り巻く経済環境としては、消費マインドの低迷に加え、円高が続き、非常に厳しい状況でした。

そのような中、弊社としては、「**Better Life with Music**」という経営ビジョンを掲げ、「モノづくり」と「コトづくり」を全社一丸となって取り組んでまいりました。

弊社スローガンの一つである「創造の喜び」の裾野を、よりひろげるためのビジョンが、「**Better Life with Music**」です。より多くの人々が音楽を楽しみ、心の支えとしていただくことで、潤いのある社会の実現に貢献したいと考えております。

Better Life with Music

満足を超えた「驚き」や「感動」の創造

コトづくり

モノづくり

楽器としての完成度の追求

そして、「Better Life with Music」を実現するための取り組みが「モノづくり」と「コトづくり」です。

NAMM2011 新製品



V-Piano Grand



RD-300NX
Digital Piano



ATELIER Combo AT-350C
Music Atelier



FR-18 diatonic
V-Accordion



BK-7m
Backing Module



VIMA JM-5



TD-9KX2
V-Drums
V-Tour Series



TD-9K2
V-Drums
V-Tour Series



TD-4KX2
V-Drums
V-Compact Series



TD-4K2
V-Drums
V-Compact Series



CY-13C
V-Cymbal Ride



CY-12C
V-Cymbal Crash



KD-9
Kick Pad



GR-55
Guitar Synthesizer



CUBE-20XL/60XL/120XL BASS
Bass Amplifiers



RC-30
Loop Station



RC-3
Loop Station



TRI-CAPTURE
USB Audio Interface



DUO-CAPTURE
USB Audio Interface



UM-ONE
USB MIDI Interface



SONAR X1
Digital Audio Workstation

モノづくりの一例として、今年発表した新製品をご紹介します。

まず、1月にロサンゼルスで行われたNAMMショーでは30機種以上の新製品を発表しました。

Frankfurt Musikmesse 2011 新製品



FP-4F
Digital Piano



C-200
Classic Organ



C-330-DA
Classic Organ



P-17
Pipe Facade



JUPITER-80
Synthesizer



BA-55
Battery Power
Portable Amplifier



**MICRO BR
BR-80**
Digital Recorder



QUAD-CAPTURE
USB 2.0 AUDIO INTERFACE

またFrankfurt Musikmesseでは10機種以上の新製品を発表しました。

これらのショーで発表した新製品につきまして、ディーラーの方々からは、革新的な製品と、即ビジネスにつながる製品とのバランスの良さを高く評価いただきました。



そのような中で、最も注目されたのが、NAMMショーで発表し、「Best in Show」を受賞した電子ピアノのフラッグシップ・モデル、V-Piano Grandです。

■アコースティック・ピアノの各コンポーネント



V-Piano



ローランドは、創業以来、ピアノが持つ豊かな表現力や音楽性を追求しつづけてきました。

そして、2009年には、弦、ハンマー、響板、ダンパー、共鳴音の相互干渉といった、アコースティック・ピアノの発音原理を踏襲した、「V-Piano音源」を開発いたしました。



V-Piano Grandは、この「V-Piano音源」をコア・テクノロジーとして、さらにグランドピアノ型のキャビネットに新開発のサウンド・システムを搭載したモデルです。



今年の2月には、大阪と東京でNew Style Concert 2011を開催しました。

作曲家の千住明さんをナビゲーターに迎え、国内外でソリストとしても活躍中のピアニスト、高橋多佳子さん、宮谷理香さん、お二人による華やかなデュオ演奏を通して、V-Piano Grandの魅力を引き出させていただきました。

Roland

V-Piano GRAND

WORLD PREMIERE

February Osaka, JAPAN Tokyo, JAPAN	April Frankfurt, GERMANY Warsaw, POLAND	May Vienna, AUSTRIA Brussels, BELGIUM Paris, FRANCE Hamburg, GERMANY Amsterdam, THE NETHERLANDS Barcelona, SPAIN Stockholm, SWEDEN	June Sydney, AUSTRALIA Sao Paulo, BRAZIL Doha, QATAR Osaka, JAPAN Tokyo, JAPAN Kuala Lumpur, MALAYSIA Lisbon, PORTUGAL	July Moscow, RUSSIA Singapore, SINGAPORE London, UK	August Rome, ITALY Beijing, CHINA
---	--	--	--	---	--

2011

今後さらに、このV-Piano Grandの魅力を広くお伝えするために、ローランドは世界21カ国で、コンサートツアー「World Premiere」を実施いたします。

本格的なクラシック・ホールにおいて、各国を代表するピアニストの方々のV-Piano Grandの演奏をお楽しみいただく予定です。



また、4月に行われたFrankfurt Musikmesseでは、ローランド・シンセサイザーのフラッグシップ・モデルJupiter-80を発表しました。

このJupiter-80は、Frankfurt Musikmesseのオフィシャルイベント誌である「メッセダイアリー」の初日のフロントページに取り上げられるなど、大きな注目を集めました。

Behavior Modeling

楽器ごとの奏法による音色変化や振る舞いを
鍵盤楽器で表現する新技術



この製品に搭載されたローランドのコア・テクノロジーが、「ビヘイビアー・モデリング」です。

バイオリンやサックスなどのアコースティック楽器は、その奏法によって音色や音の振る舞いが大きく変化します。しかもその変化は、楽器ごとに異なります。

「ビヘイビアー・モデリング」は、このような楽器ごとの奏法による音色変化や振る舞いを研究し、鍵盤演奏でそれを表現することを可能にする新しい技術です。

従来のシンセサイザーでは難しかった味わい深い演奏が可能になります。



Jupiter-80では、全音色にこの「ビヘイビアー・モデリング」を採用いたしました。



しかも、プレイヤーが演奏に集中できるよう、無理のない演奏スタイルで、各種の音色変化が起こるような、様々な工夫が凝らしてあります。



この「ビヘイビア・モデリング」は、従来のシンセサイザーの表現力を超え、新しいステージへ踏み出すための、大きな一歩となったのではないかと考えております。

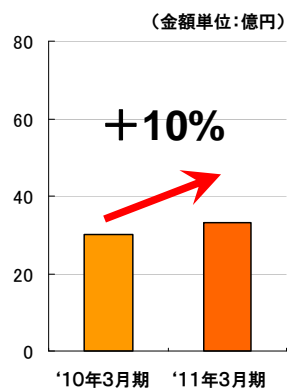


JUPITER-80のように、ローランドの製品開発においては、独自のコア・テクノロジーが非常に重要な要素となっております。

次に、このようなコア・テクノロジーを元にして開発された製品について、主要カテゴリー毎にご説明させていただきます。

《シンセサイザー》

Roland



JUNOシリーズ



前期は、シンセサイザー売上が**10%アップ**となりました。

特にJUNOシリーズは、電池駆動に加え、軽量化とコスト低減を追及し、大変好調な実績を示しております。



● 電池駆動製品の投入

また、ギターアンプも電池駆動の製品を投入した結果、好調な販売を示し、アンプ全体の売上を、為替の影響を除けば実質5%底上げいたしました。



省電力化

環境負荷軽減

電池駆動には省電力の技術が必須です。実現困難であったシンセサイザーやアンプにおいても、独自開発のカスタム・チップにより、消費電力を大幅に減少することができました。



Energy Saving Technology

by Roland

音楽のあふれる毎日がいつまでも続くように。
限りあるエネルギー資源を有効活用するために、
ローランドは様々な技術開発に取り組んでいます。

ローランドはこのような環境負荷を軽減する技術を「Energy Saving Technology」として、開発に注力しています。

バッテリー・バンド



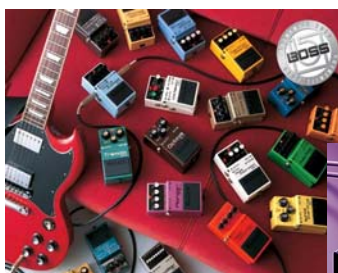
省電力化

環境負荷軽減

また、コンセント不要、持ち運びも簡単な電池駆動製品は、使用する場所を選びません。
そこでローランドでは、このような商品を活用し、電池だけでバンド演奏を楽しむというアプリケーションを「バッテリー・バンド」として提案し、普及促進を図っております。

《ギター関連電子楽器》

Roland



BOSS

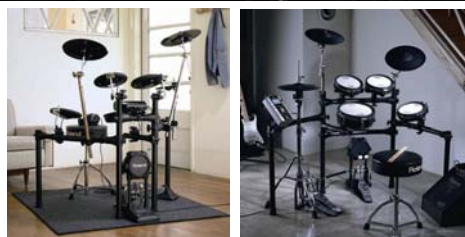


ギター関連電子楽器も堅調に推移しております。

特にエフェクターの分野では、ギター向けエフェクターだけではなく、ボーカル向けエフェクターを投入し、新しい市場を切り開きました。

また、e-Bandという製品では、既存の音楽をバックに、ギターを演奏するという新しいアプリケーションを提案し、「ベッドルーム・ギタリスト」という新規市場を開拓いたしました。

このように高いシェアに安住することなく、新規市場に製品を投入することで、常に先行者としての利益を確保していきたいと考えております。



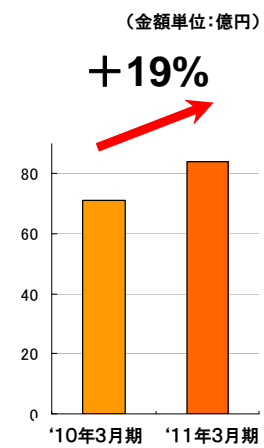
一方、ドラムは、他社の低価格モデルに苦戦を強いられ、前期は厳しい結果となりました。

しかしながら、現在でも、弊社ドラムの性能は、他社に比べて高い評価をいただいております。

そこで、この分野においては、他社を安易に追従することなく、新規音源技術の投入によって、さらに付加価値の高い製品の開発を進め、対抗していきたいと考えております。

《電子ピアノ》

Roland



さて、前期は電子ピアノの売上が19%アップと、非常に好調に推移しました。

SuperNATURAL Piano



原動力となったのは、さきほどご紹介いたしました「V-Piano音源」を元に開発された「スーパーナチュラル・ピアノ音源」搭載の家庭用デジタルピアノです。

《電子ピアノ》

Roland

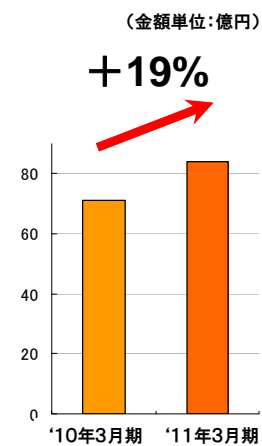
ショップ・イン・ショップ展開



また、販売店様との提携により、店舗内にローランド専門の販売スペースを設置するショップ・イン・ショップを拡充することで、拡販体制もさらに強化されました。

《電子ピアノ》

Roland



他社が低価格路線を進める中、このように、商品と接客の両面から付加価値を高め、お客様に満足いただきながら実績を上げることができたと考えております。

引き続き、アコースティック・ピアノの顧客層も取り込んだ商品展開をすすめていきます。



また近年、成長分野として取り組んできたのが業務用音響・映像機器の分野です。

この分野では、業界のデジタル化が進んでおり、ローランドの技術の活用が見込めるため、積極的に取り組んでまいりました。

《業務用音響・映像機器》

Roland

デジタル・スネーク・システム



Vミキシング・システム



REAC

・ラインナップ拡充
・ダウンサイジング



パーソナル・ミキサー



パーソナル
・モニター・システム

まずコア・コンピタンスとなるデジタル信号の高速転送技術「REAC」を開発し、この技術をベースとして、デジタルスネーク、Vミキサー、パーソナル・ミキサーなどを投入しました。

ラインナップの拡充とともに「ダウンサイジング」を推進し、着実に実績をあげています。



High Definition対応



さらに映像機器の分野では、HD化を推進しております。

インターネットライブ配信対応



オール・イン・ワンAVミキサー

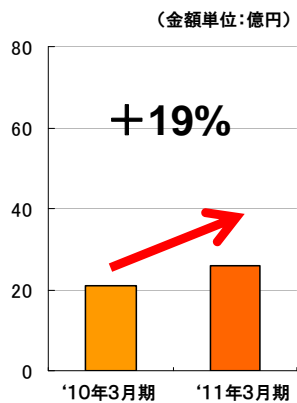
VR-5



また、インターネットを使ったライブ配信に対応する、従来にはないオールインワン・タイプのAVミキサー「VR-5」を投入し、現在好調な販売を続けています。

《業務用音響・映像機器》

Roland

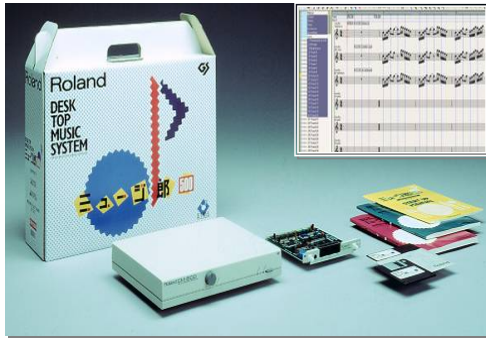


その結果、前期比19%アップと高い実績を上げることができました。

今後もこの路線を引続き強化していく予定です。



もう一つの成長分野として今後の課題としていきたいのが、パソコン・ベースの音楽制作、メディア・プロダクションの分野です。



ミュージ郎(1989)



SC シリーズ(1991~)

この分野は、ローランドが開拓した市場で、MIDIの普及を背景にミュージ郎からはじまり、サウンド・キャンバス・シリーズと、大きく売上を伸ばしてきました。



現在では、パソコン性能の飛躍的な向上にともない、ここ数年で市場は大きく成長しています。

今後は、映像も視野にいれながら、ソフト専門の関連会社であるケーキウォークのソフトと弊社のハードによる相乗効果の創出を図り、作品制作の楽しみを広げていくことを目指します。



Better Life with Music

満足を超えた「驚き」や「感動」の創造

モノづくり

楽器としての完成度の追求

コトづくり

次に、「Better Life with Music」を実現するためのもう一つの要素、「コトづくり」についてご説明させていただきます。

製品の開発、製造の取り組みは「モノづくり」ですが、この「モノづくり」から生まれた製品を使い、「感動や驚きを生み出す機会や場所を提供する」、これが弊社の「コトづくり」です。

ローランドはコンサートやコンテストの活動を長年続けています。加えて店頭でもデモ演奏やセミナー、音楽教室運営などを行っています。

このような、お客様にローランド製品の魅力をお伝えしていく活動の全てが「コトづくり」と言えます。



ローランドではこの「コトづくり」の活動を、

「コンテスト」、「イベント」、「トレーニング」、「マーチャンダイジング」、「エデュケーション」、「カスタマーサポート」の、6つの柱にまとめて「Power Program」として強化しております。

CONTESTS







様々なコンテストを世界各国で実施

まずコンテストです。

お客様が日頃の練習の成果を発表し、楽器演奏の楽しみを実感していただくステージを提供するのがコンテストの主旨です。

ローランドはPiano、Organ、V-Accordion、V-Drums、Loop Stationなど、様々なコンテストを世界各国で開催しています。

CONTESTS

MOVEMENT

様々なコンテストを世界各国で実施

このコンテスト活動は、まず各国が、それぞれの担当エリア内でムーブメントを起こすことから始まります。

そして、各国で情報を共有しながら、グローバルなコンテストに成長させていきます。

CONTESTS

Loop Station World Championship

WANTED: THE WORLD'S BEST BOSS LOOPER!

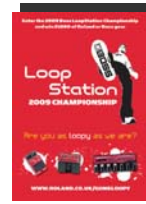
Show off your BOSS looping skills and earn a chance to compete at the Loop Station National Finals in Hollywood, where you can win thousands in great BOSS gear and secure a place in the BOSS Loop Station World Championship! It's easy - here's how:

- 1 Upload your live BOSS looping video to YouTube
- 2 Go to BossUS.com/LoopStation and fill out the entry form

FIRST PRIZE: \$3,000 IN BOSS GEAR

HURRY! ENTRIES MUST BE SUBMITTED BETWEEN JUNE 1 AND AUGUST 31, 2010

BOSS



RC-3



RC-30



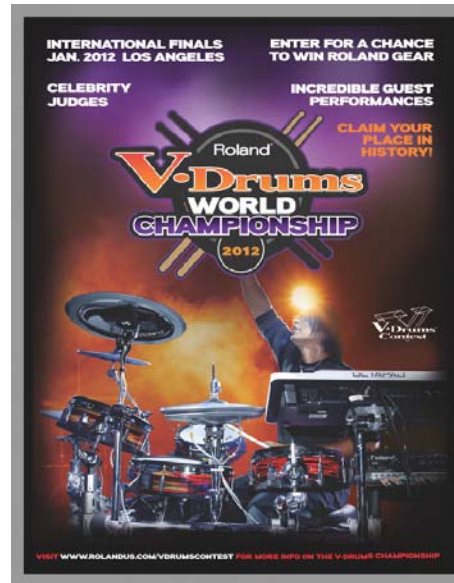
RC-50

Loop Station Contest

特に近年、新たなムーブメントとなったのが、Loop Station Contestです。

このコンテストは、4年前にイギリス国内のコンテストとして始まりましたが、今年の1月には、先ほどご覧いただいたNAMMショーで世界大会を開催するまでに成長しております。

CONTESTS



V-Drums World Championship

さらに今期はV-Drumsコンテストも、World Championshipを開催する予定です。
楽器演奏の楽しみを広げていく上で、コンテストは非常に有効な「コトづくり」であり、
引き続き強化していきたいと考えております。



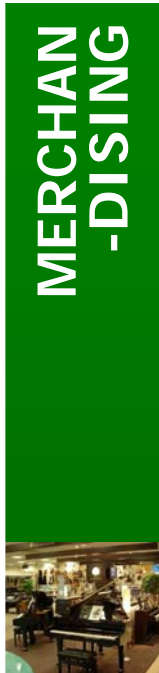
次にMerchandisingも重要な「コトづくり」です。

これはShop in Shopの展開が中心になります。販売店様との提携により、店舗内にローランド専門の販売スペースを設置するショップ・イン・ショップでは、充実した商品展示と専任販売員の接客により、商品の魅力を直接お客様にお伝えします。



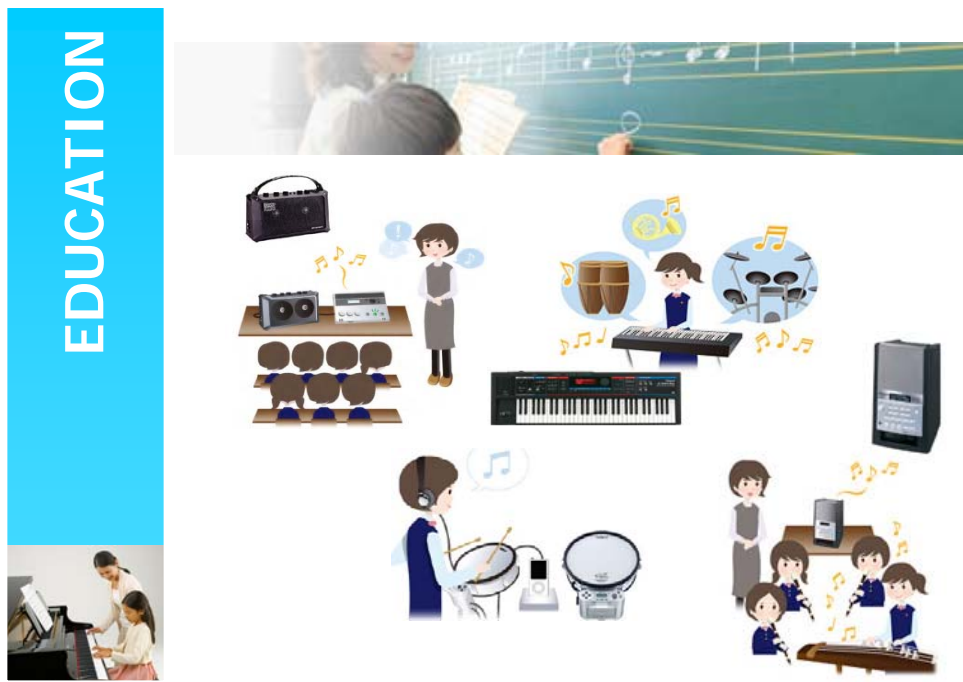
現在ではPlanet、Planet-X、Forestaという3つの形態で、日本では117、全世界では500拠点にまで拡大しています。

中南米やロシアといった新興国でも展開をすすめており、将来的には1,000拠点を目指して更に推進していきます。



また、日本では新たな試みとして、V-Drumsの体験コーナーRoland Largoの展開も開始しました。

通常では楽器店のドラムコーナーに足を運ぶことのないファミリー層の取り込みに成功し、順調なスタートとなっています。



そしてエデュケーション、教育の分野も重要です。

学校や教育関連機関など教育現場においても、ローランドの製品は様々な用途に活用
いただくことが可能です。

EDUCATION

ism

Intelligent System of Music

既存の音楽メソッドを活用し、新しいツールや技術を取り入れ、より効果の高い音楽レッスンを提供する



このような音楽教育における電子楽器の活用、これはローランドが提唱するコンセプト「ism」に基づきます。

既存の優秀な音楽メソッドをそのまま活用し、新しいツールや技術を取り入れ、より効果の高い音楽レッスンを提供する、この独自の教育コンセプトが「ism」です。

EDUCATION

ROLAND MUSIC SCHOOL



販売店様

教材開発
講師育成

教室運営



日本では、ローランド・ミュージック・スクールとして、音楽教室を全国展開しています。

ローランドが開発したカリキュラム、教材、育成した講師の方々を資産として、販売店様と提携することで、音楽教室のネットワークを拡大しております。

EDUCATION

Roland Academy
(イギリス)



Sound House
(オーストラリア)



また各国においても、それぞれの教育市場に応じて、音楽教育関係者やディーラーに向け、アプローチしております。

今後も引き続き、「ism」によって、新たな音楽教育の可能性を追求していく予定です。



その他、各種コンサートの開催や販売店様店頭での「イベント活動」、

販売店様にローランド製品の価値をより深くご理解いただき、接客に役立てていただくための「研修・トレーニング活動」、

そして、お客様からの信頼獲得につながるお客様相談センターでの対応やWEBを活用した「カスタマーサポート」など。

「Power Program」の6つの柱を展開強化することで、幅広い顧客層にアプローチし、単に楽器を販売するだけではなく、楽器を演奏する「喜び」を広めることが、ローランドの楽器ビジネスを拡大する上で、非常に重要であると考えております。

日本を戦略の供給基地と位置づけ

先進国

- ・シェア・アップ中心
- ・用途提案による新規市場創出

地域展開においては、日本を戦略の供給基地と位置づけ、世界各国と密接に情報交換しながら、売上拡大を図ってまいります。

まず、市場の成熟期にあるアメリカ、ヨーロッパ、日本などの先進国では、シェア・アップを戦略の中心に置きながら、用途提案によって新しい市場を創出していく方針です。

北米

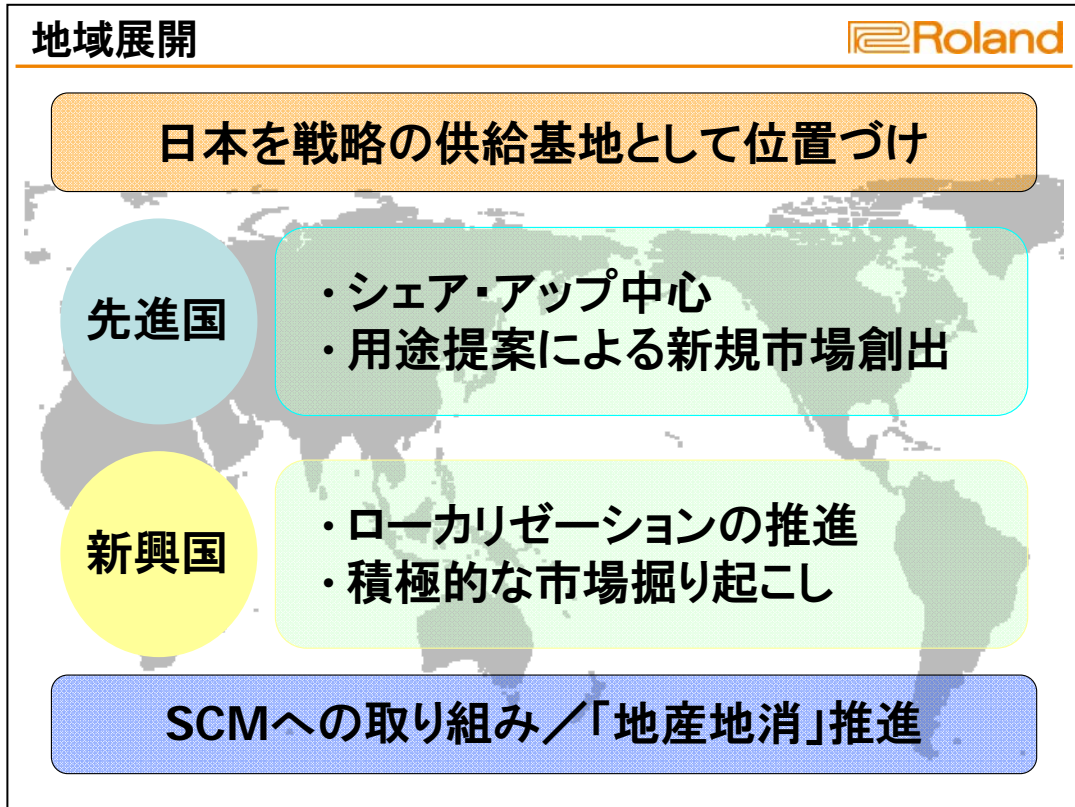
シンセサイザーや電子ピアノ販売が回復傾向
 ショップ・イン・ショップ展開による電子ピアノ拡販推進



前期においてアメリカは、シンセサイザーや電子ピアノの販売が回復し、その前年並みの売上を確保いたしました。

しかしながら、円高による仕入コスト増が響き、利益の回復には至りませんでした。

今期は、アメリカにおけるショップ・イン・ショップを推進し、電子ピアノの売上増を狙います。すでに4月末29拠点で展開しており、今後も順次拠点を拡大する予定となっております。



また、前期の動きの中で、非常に特徴的だったのが、新興国の伸張です。

特に近年発展が目覚ましい中国、ブラジル、インド、ロシアなどのBRICSにおいては、楽器市場も目覚ましい拡大を続けており、こちらはローカリゼーションを図りながら、積極的な新規市場の掘り起こしによって、さらに大きな成長を狙ってまいります。

また、サプライ・チェーン・マネジメントへの取り組みも重要なテーマと考えております。物流効率の向上と為替変動への対応力強化を目的に、「地産地消」を含め、様々な角度から対応を検討してまいります。

配当金

最後に配当金についてご説明いたします。

配当金



- ◇ 2011年3月期の期末配当金は1株当たり12円50銭
中間配当金とあわせて、年間配当金は1株当たり25円を予定
- ◇ 2012年3月期年間配当金は現段階では
業績予想が困難なため未定

		2012年3月期 予想	2011年3月期 予定
1株当たり当期純利益	連結	—	▲29円21銭
	単体	—	▲4円61銭
1株当たり年間配当金		未定	25円00銭
配当性向	連結	—	—
	単体	—	—

2011年3月期の期末配当金は、期初の予想のとおり、1株当たり12円50銭とし、実施済の中間配当金とあわせて、年間配当金は1株当たり25円を予定しています。

2012年3月期につきましては、現段階では業績予想が困難であるため、未定としています。今後、業績予想が可能となり次第、速やかに開示いたします。



さて、**2010**年度は、全体的には業績改善の方向にあったものの、円高によって、厳しい状況が続きました。

また、期末にはかつて経験したことがないような大地震が発生し、今後の部品供給や市場動向に不安な要素をもたらせております。

 Roland

企業スローガン

(事業目的)

創造の喜びを世界にひろめよう

(経営姿勢)

BIGGESTよりBESTになろう

(行動規範)

共感を呼ぶ企業にしよう

しかしながら、当社としては、このような変化の激しい状況にある時こそ、「原理原則」、「基本」に立ち返るべきであると考えます。

ローランドの原理原則は、3つのスローガンです。

Better Life with Music

満足を超えた「驚き」や「感動」の創造

コトづくり

モノづくり

楽器としての完成度の追求

そして、このスローガンの一つである「創造の喜び」の裾野を、よりひろげるためのビジョンが、「Better Life with Music」です。より多くの人々が音楽を楽しみ、心の支えとしていただくことで、潤いのある社会の実現に貢献したいと考えております。

そして「Better Life with Music」を実現するための取り組みが、本日も説明させていただきました開発・製造を中心とする「モノづくり」とPower Programを中心に展開する「コトづくり」です。

「Better Life with Music」の実現こそが、ローランドだけでなく、楽器産業の発展にもつながり、社会的にも意義あることだと信じております。

当期も、これを真摯に追求していきます。

引き続きご支援賜りたく、お願い申し上げます。

当資料に記載されている情報の中には、「将来の見通しに関する記述」が含まれている場合がありますが、これら情報は、作成時点において入手可能な情報に基づき作成しております。

経済情勢や市場動向の変化などにより、将来の見通しが実際の業績と異なる可能性があります。当社の業績、企業価値等を検討される際には、これらの見通しに全面的に依拠することは避けていただきますようお願い申し上げます。

